

第2回 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会

平成19年1月17日
午後2時～午後4時
メイシアター
レセプションホール

次 第

1. 開 会

夜久会長 開会挨拶

2. 経過報告

第1回吹田操車場まちづくり促進協議会について

3. 議 事

(1) 吹田操車場跡地まちづくり全体構想(素案)について

(2) 吹田操車場跡地まちづくり整備事業のスケジュールについて

4. 閉 会

吹田操車場跡地 まちづくり全体構想（素案）

平成 年 月

目 次

章 吹田操車場跡地を取りまく背景	1
章 吹田操車場跡地のまちづくり基本方針	7
章 導入機能及び環境形成誘導方針	8
章 まちづくり構想	9

・吹田操車場跡地を取りまく背景

1. 社会経済動向への対応

吹田操車場跡地の利用計画策定に際しては、現在の社会経済ニーズを的確にとらまえ、地区の特性を活かしたまちづくりが求められている。特に以下に掲げる社会経済動向に対応することが重要である。

(1) 本格的な高齢社会への対応

わが国では世界でも例をみない高齢化が急速に進展しており、21世紀半ばには世界屈指の高齢社会になると予測されている。

このため、大都市周辺部におけるまとまりのある貴重な開発用地である当地区においては、鉄道をはじめとする良好な交通条件をいかながら、健康、医療、福祉などの高齢社会に対応した施設の導入を図ることが望まれている。

(2) 少子化時代への対応

わが国の出生率は、晩婚化や本格的な女性の社会進出などの影響を受けて、先進国の中でも低い水準を示しており、今後さらに低下していくことが予測されている。

このため、大都市に直結する鉄道駅に近接した当地区においては、少子化時代に求められる生活支援施設や教育施設などの導入を図ることが望まれている。

(3) 環境問題への対応

地球規模での環境問題への対応が求められている今日、当地区では環境に配慮したまちづくりはもちろんのこと、環境面における未来型まちづくりの実験の場としての取り組みを図ることが望まれている。

(4) 都市再生の推進

都市の活力を蘇らせ、都市再生を実現するための都市基盤整備やまちづくりの展開が全国的な課題となっており、このような状況に対して、当地区においては、周辺の既存機能集積との連携のもとで、都市の活力の再生に資する施設導入を図ることが望まれている。

(5) ボーダレス社会への対応

経済の国際化や情報技術の進展によって、国境や地域といった境界（ボーダー）を超えた広域的な活動が急速に進展し、いわゆるボーダレス社会が到来している。

このような状況の中で、当地区においても地域の核となる施設に加えて、良好な交通条件などを活かした広域的な施設展開を図り、まちや都市の魅力・求心性などの向上をめざしていくことが望まれている。

(6) 多様多才社会への対応

年齢、性別、時間、場所にとらわれない生き方が可能となり、個人の夢が実現され、再挑戦ができる「多様多才社会」の実現が求められている。

このため当地区では、このような「多様多才社会」の実現に向けて、生涯学習などに対応する文化施設や、自然とふれあい・交流できる施設などの導入を図り、人々がいきいきと活動できるまちづくりを行うことが望まれている。

(7) 安心・安全なまちづくり

安心して過ごすことができる安全なまちとは、人々が日常生活を行う上での基本的要件であり、当地区においても多様な面で安心・安全に向けた施策を展開していくことが求められている。

具体的には、バリアフリーのまちづくりはもとより、地震をはじめとする災害への対応や、近年急増している犯罪の予防・抑止に向けた防犯システムの導入などを着実に実施していくことが望まれている。

(8) 質の高い景観形成

潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図るために、良好な景観を形成することが求められており、当地区においても、次の100年を見据えた空間のデザイン等、質の高い景観を形成することが望まれている。

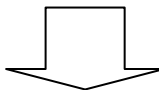
2. 計画地の特性を活かした個性的なまちづくり

吹田操車場跡地においては、吹田・摂津両市の既存ストックなどを活用しながら、吹田操車場跡地の特性を活かした個性と魅力あるまちづくりをめざしていく。

(1) 緑豊かなまちづくりをめざす

計画地の特性

21世紀のまちづくりにおいては、環境改善への具体的な取り組みなど、環境への配慮がより一層求められており、計画地の南側には吹田貨物ターミナル駅（仮称）が立地するため、同駅との緩衝空間として、「緑の遊歩道」の設置が予定されている。



まちづくりの考え方

- ・まちづくりにおいてまとまりある緑を配置し、緑と水につつまれた「地域における緑の拠点」となるまちの形成をめざす。
- ・吹田貨物ターミナル駅（仮称）との境界部に帯状に「緑の遊歩道」（緑地帯や遊歩道）を設置し、市民のうらおいや憩い、健康増進の場として活用するとともに、大阪都市圏においても稀な鉄道沿線での緑の景観を創出する。

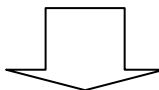
(2) 計画地の特性をいかす

計画地の特性

計画地はJR東海道本線の3つの駅に近接し、大阪・新大阪の両駅から10分前後、京都、神戸から30分前後という交通条件を有する。

さらに、平成18年12月に開業した大阪市営地下鉄今里筋線を、井高野駅からJR岸辺駅・阪急正雀駅付近まで延伸するよう要望しており、これが実現すると吹田市・摂津市における一大鉄道結節点となる。

また、計画地は国土軸に位置し、かつて「東洋一の操車場」と呼ばれ、日本の経済を支える物流拠点としての役割を担ってきた。現在は操車場としての役割を終え、北大阪の成熟した既成市街地内において、まちづくりに活用できる最後の広大な用地である。しかしながら、その形状は、延長が3km、用地幅が約150mという非常に細長い用地である。



まちづくりの考え方

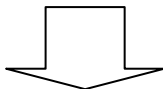
- ・この交通至便性を最大限活用し、交通利便性を要件とする施設立地需要を積極的に取り込んでいく。
- ・通常のまちづくりの視点で見れば、細長い計画地の形状はまとまりのある土地利用や効率的な基盤施設の配置において不利な条件であるが、計画地においてはこれを逆手にとった個性あるまちづくりを展開することが必要である。
- ・さらに、前述のように計画地は鉄道駅に直結するまちであるとともに、その成り立ち自体が操車場跡地である歴史を有しており、鉄道をはじめとする交通を切り口にした機能導入の可能性についても検討を行う。

(3) 周辺の機能集積をいかす

計画地の特性

計画地周辺の機能集積の特徴として、高度教育機関と高度医療機関があげられる。高度教育機関としては、大阪大学をはじめとして関西大学や大阪学院大学、大阪人間科学大学など全国有数の集積を誇っている。これらの大学では、従来の研究領域に加え学際的な新たな領域、さらには今日的な課題に対して進化していくことが求められており、その時々々の社会経済状況に応じて新たな機能・施設展開が必要となっている。

また、高度医療機関については、大阪大学附属病院や国立循環器病センターなどが周辺に集積しており、高度教育機関同様に常に新たな展開が期待される分野である。



まちづくりの考え方

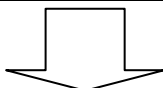
- ・このような周辺機能集積をいかして、計画地においてはこれら研究・教育や医療の新しい核となる施設誘致を検討するとともに、周辺での機能集積をサポートする関連機能・施設の導入をめざしていく。

(4) 周辺市街地のまちづくりとの連携

計画地の特性

計画地の摂津市域に面して、吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターが立地している。これらの施設は老朽化などにより、近い将来の機能廃止が予定されているが、機能廃止後の土地利用については、これまで検討を行っていない。

このため、これらの施設の機能廃止後の土地利用について、計画段階から計画地との連携が求められる。また、計画地に隣接する住宅市街地の良好な住環境を保全・形成する上での配慮が求められる。



まちづくりの考え方

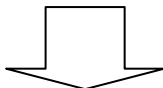
- ・吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターの用地については、機能廃止後の土地利用のあり方について、当地区に併せて総合的に検討する。
- ・周辺市街地の住環境の保全向上に寄与する都市景観の形成をめざす。

(5) 個性ある機能が複合するまちづくりをめざす

計画地の特性

かつてバブル経済期の大型まちづくりが、ほぼ同様の導入機能で計画され「金太郎飴開発」と揶揄された時期があったが、21世紀のまちづくりにおいては都市の個性の創出や、まちの使い手である市民等のニーズに対応した展開が求められている。

このため、計画地は細長い形状の用地であり、地区内においても鉄道利便性などの立地条件が異なることから、このような特性を考慮した機能導入を行うことが求められる。



まちづくりの考え方

- ・細長い用地の長手方向にそれぞれの立地機能が相互に連携しながら、全体として多機能が複合するこれまでにない個性あるまちづくりを検討する。
- ・導入機能としては、上位計画や吹田・摂津両市のまちづくり政策、社会経済状況を踏まえた市民ニーズなどに幅広く対応する内容を検討し、これらが相互に連携し、相乗効果を発揮するまちづくりをめざす。

3. 吹田操車場跡地に望まれる都市像

社会経済動向や地域特性、上位計画での位置づけ等を踏まえ、吹田操車場跡地に望まれる都市像を示す。

(1) 次の100年を見据えた未来型都市モデルをめざす

かつて、「東洋一の操車場のあるまち」と呼ばれ、時代をけん引する役割を果たした歴史を踏まえ、次の100年を見据えた都市及び環境づくりを行い、新たな都市のモデルとなるまちづくりをめざす。都市生活において自然環境との日常的共生を図り、地域経済、文化及び福祉が共存調和する都市をめざす。

(2) 北大阪をけん引する高度な機能集積と高質な環境形成をめざす

府域レベルの上位計画、交通至便な立地特性、広大な用地及び周辺の高度医療・教育機能の集積状況により、北大阪地域におけるまちづくりの発展・けん引に貢献する新たな都市拠点として位置づけ、高度な機能の集積と質の高い環境を形成することにより、周辺市街地への波及をめざす。

(3) 北大阪の環境シンボルとなる豊かな緑と安心・安全な環境づくりをめざす

次の時代を担う都市環境として、豊かな緑に包まれた拠点形成を図ることにより、北大阪地域における環境シンボルとして内外に発信し、ユニバーサルデザインにより誰もが快適に利用できる都市をめざすとともに、防災防犯性の高い環境づくりをめざす。

(4) 未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす

グローバル文化と地域文化の適切な融合が近代のまちづくりには不可欠である。現状の北摂文化という地力を核に、遠隔地域の人々を引きつける未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす。

(5) 市民の健康を育む疾病予防的健康増進施設の立地をめざす

加速する高齢化により、病気や介護の負担が極めて大きな社会になると考えられ、病気や介護に対する予防的取組みが求められる。市民の健康づくりをサポートする健康増進機能を中心にした拠点機能の形成をめざす。

(6) 研究教育機能と産学官プラス市民による協働交流施設の立地をめざす

計画地周辺には、大阪大学や関西大学をはじめとした大学や、国立民族学博物館等の高度教育研究機関が集積立地し、これらを支える支援機能や高度化・専門化する関連機能の受け皿が求められている。研究教育機能の導入と産学官プラス市民による協働交流拠点の形成をめざす。

(7) 五感で楽しむ変化に富んだ緑の空間形成をめざす

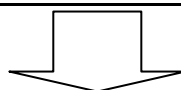
長大な計画地の形状を活かし、東西方向への緑の連続性の確保と、各ゾーンの特色を活かした、変化に富んだ緑の空間を連担させることにより、五感で楽しみながら、歩ける歩行者空間や施設と良好な景観の形成をめざす。

吹田操車場跡地のまちづくり基本方針

前章記述の吹田操車場跡地を取りまく背景より、まちづくり基本方針を以下のように設定する。

吹田操車場跡地を取りまく背景とまちづくり基本方針の設定

<p>-1 社会経済動向への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本格的な高齢社会への対応 (健康・医療・福祉施設等へのニーズの増大など) ・少子化時代への対応 (生活支援施設の必要性や、私立大学における一貫教育施設整備など) ・環境問題への対応 ・都市再生の推進 ・ボーダレス社会への対応 ・多様多才社会への対応 ・安心・安全なまちづくり ・質の高い景観形成
<p>-2 計画地の特性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物流拠点としての歴史性を備えた、国土軸上に位置する北大阪最後の広大な用地 ・鉄道などの優れた交通条件 ・駅直近の交通条件から期待される集客力 ・細長い用地 ・千里ニュータウンをはじめとする計画地周辺での学術・研究、高度医療施設集積 ・隣接する正雀下水処理場及びクリーンセンターの機能廃止 ・大阪市営地下鉄今里筋線の計画地までの延伸を要望
<p>-3 望まれる都市像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次の100年を見据えた未来型都市モデルをめざす ・北大阪をけん引する高度な機能集積と高質な環境形成をめざす ・北大阪の環境シンボルとなる豊かな緑と安心・安全な環境づくりをめざす ・未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす ・市民の健康を育む疾病予防的健康増進施設の立地をめざす ・研究教育機能と産学官プラス市民による協働交流施設の立地をめざす ・五感で楽しむ変化に富んだ緑の空間形成をめざす
<p>行政施策との整合性の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吹田市における東部拠点形成 ・摂津市における計画地での新たな都市拠点形成 ・吹田市における「健康づくり都市宣言」「健康すいた21」 ・摂津市における文化・スポーツ・レクリエーション活動に参加・参画しやすい環境づくり



<p>まちづくり基本方針</p>	<p>「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出</p>
------------------	---------------------------------------

導入機能及び環境形成誘導方針

まちづくり基本方針に沿って、求められる都市機能と都市環境・都市景観の方向性を以下のとおり設定し、土地利用の誘導を図る。

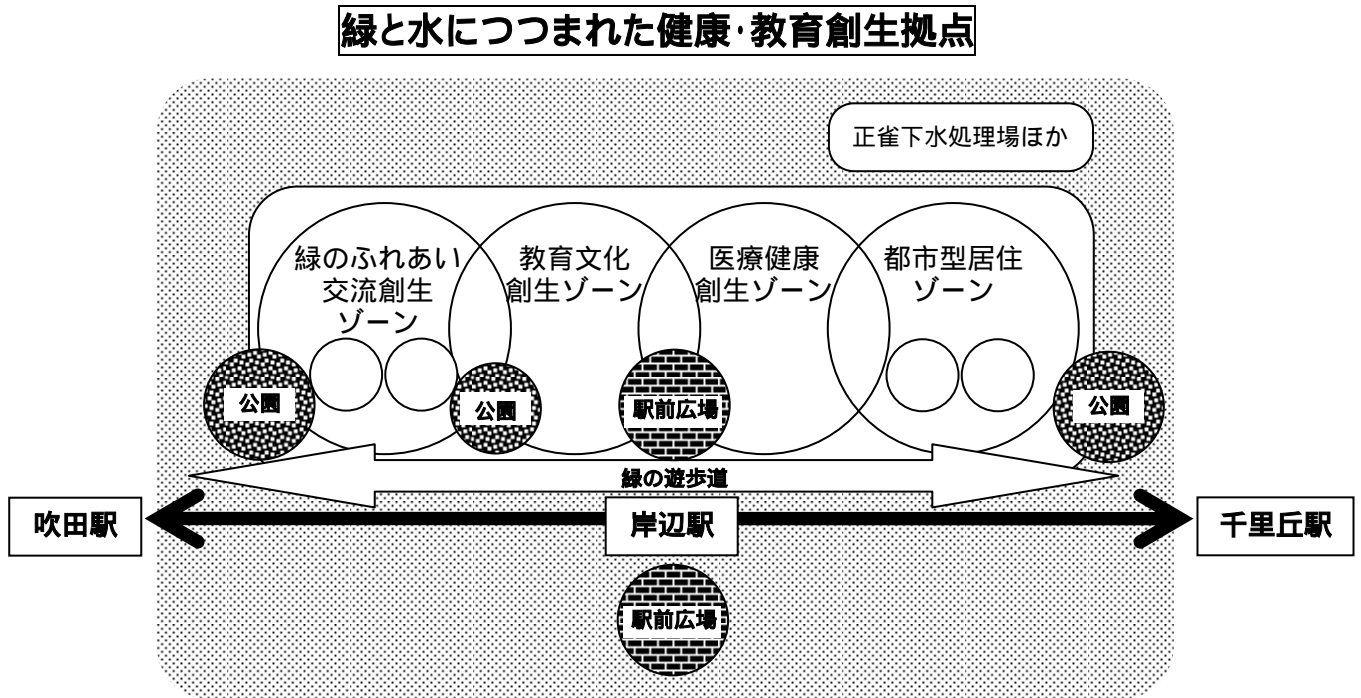
導入機能及び環境形成誘導方針の設定

まちづくり 基本方針	「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」	
	都市機能	都市環境 都市景観
誘導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康づくり都市宣言」「健康すいた21」の実現に向けた疾病予防的な医療・健康増進施設の導入 ・総合的な医療サポート施設群の導入 ・地域の交流や文化を育むコミュニティ施設、文化施設の導入 ・研究・研修施設、まちににぎわいをもたらす教育施設の導入 ・産学官プラス市民によるコラボレーションを支援する交流機能の導入 ・防災機能を有した公園の導入 ・緑豊かな居住・生活支援施設の導入 ・暮らしを支える生活利便施設の導入 ・緑とふれあうことのできる交流施設の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の遊歩道及び公園、敷地内植栽による緑のネットワークの形成 ・里山の再生等環境シンボルの形成 ・環境教育と環境意識啓発の場の提供 ・良好な環境と景観形成による都市イメージの向上 ・駅前の顔としての印象的景観の形成 ・周辺市街地との調和に配慮した都市デザインの実現

まちづくり構想

導入機能及び環境形成誘導方針を基に都市構造及びゾーニングを以下のとおり設定する。

まちづくり概念図



緑と水につつまれた健康・教育創生拠点

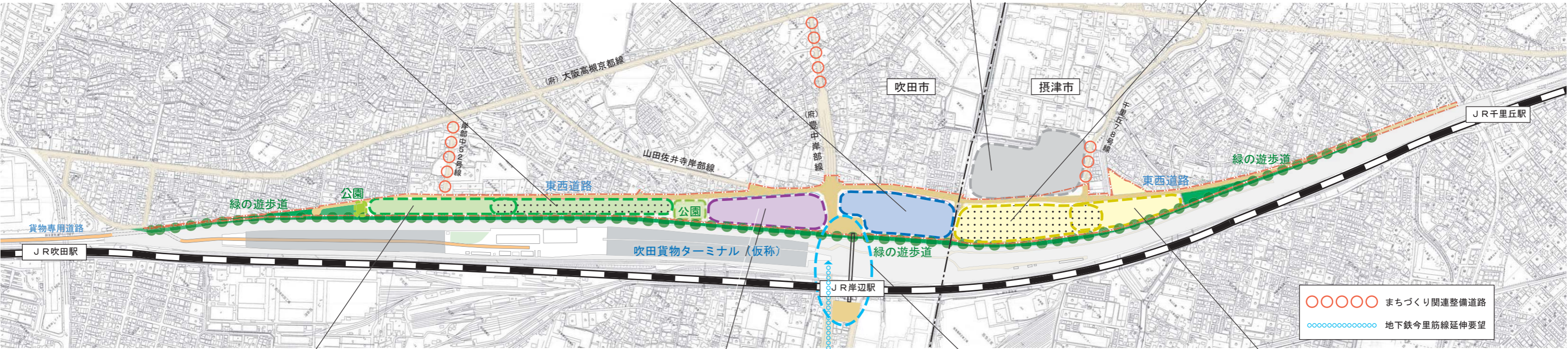
- ＜環境形成誘導方針＞
- ・ 緑の遊歩道及び公園、敷地内植栽による緑のネットワーク形成
 - ・ 里山の再生等環境シンボルの形成
 - ・ 環境教育と環境意識啓発の場の提供
 - ・ 良好な環境と景観形成による都市イメージの向上
 - ・ 駅前の顔としての印象的景観の形成
 - ・ 周辺市街地との調和に配慮した都市デザインの実現

- 緑のふれあい交流創生ゾーン(Ⅱ)
緑を中心とした市民の生活交流空間
＜導入機能誘導方針＞
- ・ 緑豊かな居住・生活支援施設の導入
 - ・ 緑とふれあうことのできる交流施設の導入

- 医療健康創生ゾーン
市民の健康をサポートする中核的な拠点
＜導入機能誘導方針＞
- ・ 疾病予防的な医療・健康増進施設の導入
 - ・ 総合的な医療サポート施設群の導入
 - ・ 緑豊かな居住・生活支援施設の導入

- 正雀下水処理場ほか
・ 当該用地は、機能廃止が予定されており、当地区に隣接していることから、将来的な土地利用のあり方について吹田操車場跡地のまちづくりと併せた検討が必要である

- 都市型居住ゾーン(Ⅱ)
駅近接の利便性を活かした都市型居住空間
＜導入機能誘導方針＞
- ・ 緑豊かな都市型居住施設の導入
 - ・ 育児・福祉などの生活支援施設の導入
 - ・ 暮らしを支える生活利便施設の導入



- 緑の遊歩道
- ・ 豊かでボリューム感のある緑の連続空間
 - ・ 楽しみながら距離を感じさせない健康増進空間
 - ・ まちの持つコンセプトを周辺地域に発信する

- JR岸辺駅前の整備
- ・ まちの顔となる北駅前広場の整備
 - ・ まちのイメージを表現する駅周辺部の景観形成
 - ・ 緑のネットワークの中心となる緑豊かな空間整備
 - ・ JR岸辺駅の橋上化と南北自由通路の整備
 - ・ 南駅前広場の改修

- 緑のふれあい交流創生ゾーン(Ⅰ)
新たに生み出すまとまった緑の空間
＜導入機能誘導方針＞
- ・ 緑とふれあうことのできる交流施設の導入 (例えば、ギャラリー・体験施設・店舗など)

- 教育文化創生ゾーン
だれでもいつでも学べる教育・研究の中核的な拠点
＜導入機能誘導方針＞
- ・ 研究・研修施設、まちににぎわいをもたらす教育施設の導入
 - ・ 産学官プラス市民によるコラボレーションを支援する交流機能の導入
 - ・ 地域の交流や文化を育むコミュニティ施設、文化施設の導入

- 都市型居住ゾーン(Ⅰ)
憩いと安らぎの生活交流空間
＜導入機能誘導方針＞
- ・ 防災機能を有した公園の導入
 - ・ 市民の憩いの場となる交流施設の導入

吹田操車場跡地まちづくり整備事業のスケジュールについて

(1) 吹田操車場跡地まちづくりのスケジュールについて
別紙 1 のとおり

(2) コンペ導入とスケジュールについて

1) コンペ導入の目的

プロジェクトの P R

平成 2 0 年度に実施予定の事業企画コンペに向けて、吹田操車場跡地のまちづくりの内容を民間事業者に対して広く認知させること

民間事業者のアイデア募集

基本構想に沿った土地利用を実現するために、導入機能に関して民間事業者のアイデアを募集し、基本計画に反映させること

事業者進出意欲、事業成立性の把握

基本構想に沿った土地利用を行う民間事業者の進出意欲や事業の成立性を把握すること

民間事業者の決定

基本構想に沿った土地利用を実現することができる民間事業者を決定し、まちづくりの中核とすること

2) 平成 1 9 年度エントリーコンペについて

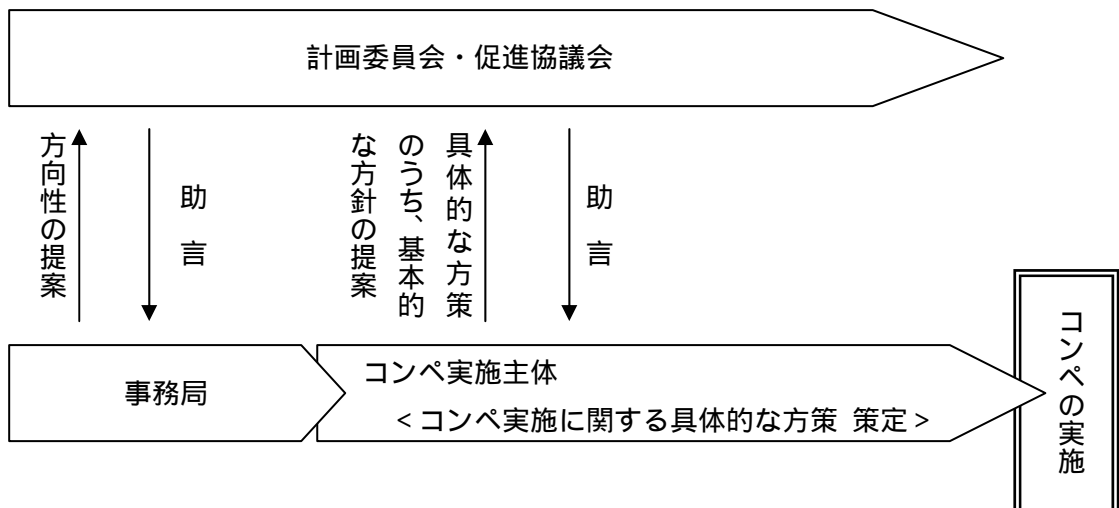
コンペの目的

上記目的のうち、 から を平成 1 9 年度コンペの目的とする。

コンペ実施主体

当地区の地権者、土地区画整理事業の事業施行者、行政等から構成される組織体
計画委員会・促進協議会の役割

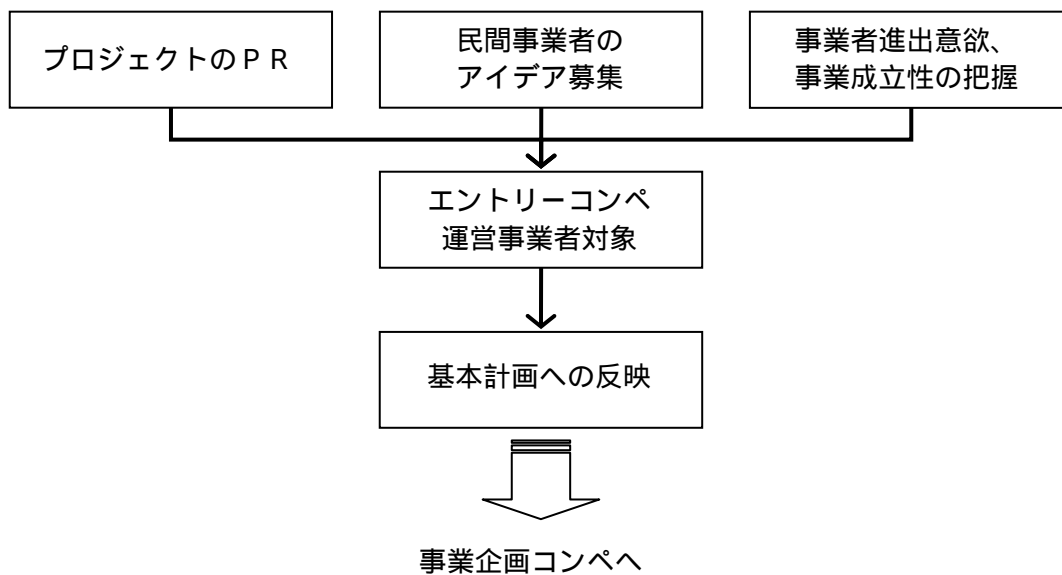
計画委員会・促進協議会は、コンペ実施主体に対して、コンペ実施に際し助言
を与える。



応募対象者

当地区で基本構想の趣旨に沿った事業を運営する意欲のある者

例) 医療法人や健康関連メーカー、学校法人、飲食業や食料品の関連メーカー、
NPO、市民団体など



吹田操車場跡地のまちづくり事業スケジュール(案)

事業年度		平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	
吹田操車場跡地まちづくり 事業推進体制	吹田操車場跡地まちづくり計画委員会	←→										
	吹田操車場跡地まちづくり促進協議会	←→			←→							
	市民との協働 (パブリックコメント、市民会議など)	意見募集	←→									
まちづくり整備事業 (事業者選定、まちづくり会社など)			事業 エントリー コンペ	準備	事業企画 コンペ	決定	まち					
都市計画 手続き	事業・都市施設	→		計事業 画決定可	仮換地	び						
	地域地区		→				ら					
環境アセス(都市計画アセス) [吹田市]		←→				き						
都市基盤施設		基本設計	測量・実施設計		駅前広場・自転車駐輪場建設 [吹田市]			造成工事(道路・公園含む)				換地処分・清算

第 1 回吹田操車場跡地まちづくり計画委員会
第 1 回吹田操車場跡地まちづくり促進協議会
主な意見

1 . 吹田操車場跡地地区の位置づけに関する意見

- ・国土軸に沿った交通至便の立地にあるとともに、北大阪で最後に残された広大なまちづくり用地であり、北大阪全体の発展を牽引する存在である。
- ・100 年先を見据えた持続可能な新しいまちとして、高度な機能集積や高質な緑に包まれた空間であることが重要である。
- ・「身も心も健康になる施設整備」というような市民ニーズに応え、かつ広域集客も図れるまちにしたい。
- ・周辺開発プロジェクトが担う役割を踏まえ、地域ネットワークの中で、当地区がどういう役割分担なのかを明確にさせることが重要である。

2 . いまのまちづくりに求められているものに関する意見

- ・次の 100 年を見据えた空間デザインや環境のあり方について求められている。当地区の全体像を環境に配慮した視点で見直していく必要がある。
- ・未来指向のまちづくりで、緑を中心に考えるのは当然であり、もう一步インパクトが必要である。具体的な環境改善への取り組みや、ソフト面を重視した安心・安全なまちづくりなどが求められている。
- ・行政区分等の垣根を越え、「産官民」の連携や安心・安全なまちづくりの実現により、まちの付加価値を高めていくことが求められている。
- ・企画案に今後の日本人の根元的変化の予測が必要であり、将来文明の抜本的变化を視野に入れた、人間生活の進歩と調和を誘導する理念を設定しても良いのではないかと。

3 . 吹田操車場跡地のまちづくりの全体像に関する意見

- ・かつて、「東洋一の操車場のあるまち」と呼ばれたこの跡地を、新たなシンボルとして再生したい。
- ・縄文の森や里山、桜並木などに囲まれた、「森の中の高機能空間」づくりという都市イメージがある。
- ・まず、緑を中心とした環境づくりを考え、緑の遊歩道と連携した公園を整備し、スポーツ・リクリエーション機能や防災機能も盛り込みたい。
- ・「北摂パークタウン」として、敷地全体で公園とし、その中に施設があるというような考え方が良いのではないかと。
- ・街全体に緑（森）があり、その中に色々な都市機能があることが、非常に特徴的であり、理想的であると思う。
- ・吹田操車場跡地全体の中心は JR 岸辺駅であり、まちづくりの核として高度な機能集積を図ってきたい。

4 . 周辺地域との関係性に関する意見

- ・周辺地域も含めた都市デザインの検討が必要である。
- ・隣接する正雀下水処理場及びクリーンセンター（約4 . 5 h a ）に関する取扱いが一番の問題と認識している。これらの機能廃止も含めた土地利用のあり方について、関係機関との協議調整を含め、このまちづくりと併せた検討が必要である。
- ・将来の都市計画決定に向けた議論として、隣接・近接市街地との関係性についての考え方の整理や防災等、都市レベルにおける整備課題のリンケージの有無についての考え方の整理が必要である。

5 . 導入機能に関する需要把握や事業性の検証の必要性に関する意見

- ・導入機能に関して、ランニングコストまで含めた事業性の検討が重要である。
- ・医療健康、教育、環境といった、まちづくりの導入機能に関する競合状況も激化しており、マーケティング調査等に基づくリーディングプロジェクトづくりが必要である。
- ・当地区に導入する都市機能が対象とするターゲットの地理的特性や年齢性別特性を整理し、メインターゲットの設定が必要である。

6 . 吹田操車場跡地の特徴づけ・導入機能に関する意見

- ・現状の北摂文化という地力を核に、遠隔地域の人々を引き付ける未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす拠点となるべきである。
- ・大学のキャンパス移動等は考えがたく、大学と市民、企業の新たなコラボレーションの拠点として位置づけるような考え方が、当地区ではできるのではないか。
- ・高度な医療機関を除けば、地区内に一般の病院や医療施設の整備は不要で、健康増進や疾病予防を主眼とした施設構成を図るべきである。
- ・教育や医療健康に関する導入機能に関して、相互利用が図られる形態が最も有効的である。
- ・緑の遊歩道についても、健康づくりの拠点として捉えて欲しい。
- ・緑の遊歩道に歩いた距離が判る距離標を設置したり、健康運動器具の設置、休憩機能を兼ねた運動施設、温泉の活用など、遊び感覚で健康づくりに取り組める場所ができるのではないか。
- ・運動場等も企業グラウンドを中心にかなり減っているので、運動機能の確保も必要である。
- ・健康や静かな住環境の確保という視点からは、グリーンベルトとしての緑の遊歩道の高さを確保し、貨物駅とまちとの緩衝性を高める工夫が必要ではないか。
- ・緑や環境を重視する場合に、駅を降りたときにぱっ、と広がるような景観づくりも重要である。

7 . 地域資源の活用に関する意見

- ・近隣の大学や有数の文化・学術研究機関が集積するポテンシャルを最大限に活かした計画づくりが必要である。
- ・万博との関係や関西圏の位置づけなど、地域資源と当地区の関わりを調べるべきである。
- ・この土地には、国土軸に沿った貨物輸送拠点として、大阪圏の市民活動を支えてきた歴史があり、この歴史性を活かした計画になることを期待している。

8 . まちのつくり方に関する意見

- ・公園をつくる場合でも、作り方によっては、夜は怖くて誰も寄り付かない場合がある。ハードだけでなくソフト面に配慮したまちづくりが必要である。
- ・まちづくりを行う過程の中で時間をかけて検討を行い、魅力的な施設をつくり上げることにより、周辺にも波及効果を及ぼす「Step by step」のまちづくりを展開していくべきである。